



## 四月の幼稚園

### 四月の保育

幼稚園……堀合文子

保育所……鈴木とく

堀合文子

桜もほころび、鳥も歌う四月。手足ものびのびと、寒さから解放された春の訪れ。どの人の顔もえみをた、え、希望に満ち満ちている。幼稚園の庭にも新しい顔がほころんでいる。

新入園児を迎えた私共も希望に満ち満ちて、お母様のふところから始めて飛出して来た新入園児を「さあいらつしやい」とお隣のおばさんのような、又家庭と同じような暖かさで迎えたい。いかめしい計画もあるが、先ず幼稚園のお母様として家庭と同じような、家のお母様と同じような心持で迎える事が計画の第一でしょう。さあ幼稚園のお母様になりましょう。

年長組になつた園児達も春の訪れと共に希望に満ち満ち、庭中か

けまわつている。新入園児のお兄様、お姉様になつた喜びもつつみきれないようである。

なごやかに幼稚園の一年の歩みが踏み出された。幼稚園のお正月であるこの機会に、私共も、希望を持ち、計画も立てると同時に、自分の頭に磨をかけましょう。とかく、実際に生活する私共は次第に馴れると共に自己解決にはしり、向上に乏しくなるもので、希望を持つと共に、たとえ一頁なりとも心理学でも保育等でも何でもよいひもときましょう。立派な計画を望む前に、自分を反省し磨く事が四月の大きな仕事ではないでしょうか。

主 題	年 少 組	年 長 組
	<p>○幼稚園</p> <p>大きな主題ですが、家庭よりはじめて社会に出た新入園児に一日も早く幼稚園に馴れて、家庭の延長の場として楽しく生活出来団体生活になれるように四月一杯この主題で通す事にしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育室（自分の部屋、年長組）</li> <li>・手洗、下駄箱、帽子掛、庭、遊び室を覚える。</li> <li>・遊具でよく遊ぶ。</li> <li>・自分の引出し、道具箱、クレヨン、鉄、帳面等を覚える。</li> <li>・みんなと一緒に絵をかいたり、仕事をしたりする。</li> <li>・みんなと歌をうたったり遊んだりする。</li> </ul>	<p>○年長組になつて</p> <p>大きい組になつた喜びと希望を十分に活用させ、大きい組になつた自覚と共に、約束等も共に考えてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい保育室の観察</li> <li>・新しい道具新しい引出しを覚える。</li> <li>・大きい組になつたらどんな約束をしたらよいか皆と相談して決める。</li> <li>・新入園児に対する約束を決める。</li> <li>・新入園児にお土産をつくつてあげる。</li> <li>・新入園児にうたを歌つたり、ゆうぎしてみせてあげる。</li> </ul> <p>○無題</p> <p>無計画というのでなくて、春という好季節を充分満喫させるために、戸外遊びを充分にさせ、冬の間ちがまつていた身体を充分にのびし自然にしたしみながら、その中に細かい、例えば製作、ゆうぎ等の計画を折込んでゆきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・散つた桜の花びらで首飾りをつくる。</li> <li>・自分で作つた花籠を持つて摘草にゆく。</li> <li>・冬の間手入れしてなかつた畠を皆できれいにし種をまく。</li> <li>・春に主題する、リズム遊びをする。</li> <li>・年少組の終りに作つた花やさんを開店、年少組のお客様に売つてあげる。</li> </ul>

導した方がよい。

○自分の引出し、道具類

自分の引出しの場所を覚え、その中にしまつてある道具類も皆で観察させ道具類の目的と使い方を簡単に話しておくこれもその使用毎にこれから指導しなければならぬ。

○庭、遊具

皆で庭を一周りして観察する。同時に遊具も観察し、話合う。

○先生

これは何よりも先に観察してもらわねばならぬ事で自分の組の先生から次第に幼稚園の先生を覚える。

○お友達

始めて社会へ出た新入園児には、お友達とゆう事は大なる環境であり、観察の対象である。よるこぶ人、おどろく人種々でしょうが、生活を共にする人としてお話合いの中に観察させましょう。

○桜

幼稚園の庭にあれば尙結構だがなければ近くの桜をみにいつてもよい。年少では全体的の美しき、桜という木の観察

○たんぽぽ

黄色く美しく咲き出すたんぽぽ、色、形、大きさ等大まかな観察でよいから話合いながらみせる。わたげの所も先に

年少組よりも細かく観察する。

部屋に飾つて身近によく観察させ、花びらの数、花びらの形、色、一重のと八重のとがある。木の表面のざら／＼している所、葉の形等話合いながらよくみる。花びらを針で糸に通して首飾りを作つたりする。

○摘草

近くへ摘草にゆき、土筆、なづな、よもぎ、れんげ等よく観察させたい。

○たんぽぽ

花の形や葉の形の特徴をしらせたい。なるべくとつてしまわぬよう皆のお友達としてかわいがる事を約束する。くきをおると白い汁が出る事、水の中に入れてこまかく先をわるとくる／＼とまいてしまう(ごごじや)等あそんでみせる。

お話	観察
<p>○白 兎</p> <p>○ホコく</p> <p>○富子さんの風船</p> <p>○猫のお見舞</p> <p>○三四の熊</p> <p>○うさぎとかめ</p> <p>○紙芝居</p> <p>仔猫ちゃんのお日傘</p> <p>ミチちゃんの遠足</p> <p>一寸法師</p>	<p>○幼稚園の保育室、遊び室</p> <p>先づ自分の部屋を覚える、はじめの中は何か目標をつけておくとい。</p> <p>一週間位たつたら他の部屋、遊び室を皆と見学しながら覚える。</p> <p>保育室の中にはどんなものがおいてあるかお家とどこがちがうか等お話しして観察する。</p> <p>○手洗所、下駄箱、帽子掛</p> <p>一番必要な場所であるから、すぐおぼえる。自分の所が何処であるかも覚えさせる。手洗所は見学した時簡単に使い方を約束しておく。</p> <p>はじめの中は手洗所へはいつも附添つて使い方を実際に指</p>
<p>○花咲爺さん</p> <p>○虫の洋服屋さん</p> <p>○ジャックと豆の木</p> <p>○紙芝居</p> <p>たんぼぼの三つの種</p> <p>○人形芝居</p> <p>めんどりと猫</p> <p>—お人形のダンス—</p> <p>年少組をよんであげる。</p>	<p>○新しい部屋</p> <p>年長組になつて新しい部屋にかわる。今までの部屋とちがう所、同じ所等話合つて観察する。</p> <p>○新しい引出し、道具類</p> <p>自分の新しい所を覚え、道具類の新しくなつた事も観察し取扱ひ方等約束をしておく。新しい道具で新に希望をもつ人も出来てくるでしょう。</p> <p>○新しいお友達</p> <p>自分達が年長になつたと同時に年少組には沢山の妹や弟が出来た。お姉様やお兄様ぶる人も出来てくるでしょう。年少者に対する態度の約束を話し合ひながらする。</p> <p>○桜</p>

らつてみせる。

○土筆

東京ではなかなか手に入らないが手に入つたらみせたい。筆の様な形、大きくなると形が変わる事をはなしておく。同時に摘草にゆくと、春にはよもぎ、シロローバー、れんげすみれ等ある事を話す。四月の終りになれば近くへ摘草にゆける位になれてくるでしょう。

○皆で今までしつてゐる歌をうたう

家庭でうたつて知つてゐる歌を言つてもらつて順々にうたう。

○大きい組のゆうぎをみる

はじめはみせてもらうだけでやりたい人がだんく、お仲間入りさせてもらう程度でよい。

○ピアノにあわせて歩く

列をしなくてよいから自分の好きな方向に勝手にあるかせてみて、勿論ピアノにあわないから、今度はあはせてあるくようにと約束する。あわせてあるくとゆう事は一番むずかしい事で又大切な事である。年長組になつてもどうかすると出来ない人もゐる。が先づこれが大切であり長い期間かゝらねば出来ない事であるから、これからは始める。今後常にこれはやらねばならない。曲は「もしくかめよ」

○たんぼぼ

○蝶々の自由表現

○春のリズム遊び

たねをまくと皆が種になつて土にうづもれる。

芽を出す

葉が出る

花が咲く

蝶がとんでくる。これらの動作をピアノに併せて自由に表現させる。

○チューリップ

ままごと等年少組の方に歌つてきかせてあげる。

○金太郎

四月の最後の週から五月五日の子供の日のための歌を少しづつは始める。

音楽  
リズム

<p>とか「お手々つないで」のように耳なれた簡単なものがよい。</p> <p>○スキップをする。 はじめは出来る人だけでよい。年長組のお仲間入りでやらせてもらう。 出来ない人をしてさせる事はいらない。</p> <p>○こちらのいうものの自由表現 あひる、蝶々と指名してその表現を自由にさせる。はじめはしないでうるうるする人がいるが、先生が言葉でそこをおぎなつてあげると少しづつでも手足がうごいてくる。はじめは年長組のをみてまねでよい。</p>	<p>製作 お画かき</p> <p>○帳面にすきなものをかく。 かいたものは何であるか聞いてその横に小さくかいておく。 日附を記しておく。</p> <p>○色紙で好きなものを切らせる。 切つたものをはれる人ははらせるがはつてやつてもよい。 やはり何であるかかいておく。</p> <p>○チューリップの手提 形を印刷しておいてぬつて切るだけさせる。これは花の形に手のついた簡単なものである。 組立てるのはこちらです。</p>
<p>○花籠 ・摘草に持つてゆくのを作る。 ・年少組にお土産にあげるのを作る。</p> <p>○首飾り 打ぬきとむぎわらと交互に通したものを。年少のお土産にしてもよい。</p> <p>○お画かき 自由 えのぐで</p> <p>○切紙 自由</p>	

<p>○首飾り</p> <p>花とむぎわらとを交互に通す。 花はなるべく大きめに切る。</p>	<p>健康の習慣</p> <p>○朝登園したら手を洗う。 ○砂場その他で手が汚れたら必ず洗う。 ○帰宅後の手洗とうがい約束する。 ○仕事の前には用便にゆく。 これはしばらくの間こちらで必ずゆくようにうながして習慣をつける。 用便の手洗等もこの時によく約束する。 ○四月の身長 体身の測定</p>	<p>よき習慣</p> <p>○朝と帰りの挨拶 ○遊んだ道具の後仕末 ○靴をはきかえて外へ出る ○自分の道具類の取扱と後仕末 ○仕事をした後の仕末 切くずをひろつておく ○糊のつけ方、紙をひいてつける。 ○常に先を争わず順に列んでする 家庭からはじめての社会生活にはどうしても自分だけの事</p>
<p>○風車(プロペラ式のもの)</p> <p>出来たものは皆で広い所でまわしつこをするとよい。 まわらないのはどうしてまわらぬか考えさせる。 色が誰のがきれいかも観察する。</p>	<p>○食後歯をみがく ○食物はよくかんで食べる ○手の洗いを再約束する 表だけ洗つておくのでなくよくうらもあらうようにする。 ○鼻が出たら自分でかみ、いつもきれいにしておく。 ○四月の身長体重の測定</p>	<p>○年少者をかわいがる ○共同のものは自分ばかり使うのでなくかわりあつて使うように ○当番をきめる 年長組になるとお当番を二人づききめる。その人達の仕事は皆と話し合つてきめたい。はじめはあまり重荷にならないよう、形式程度で二学期位から責任を持たせたい。 ○言われないでも遊んだ後仕末はちゃんとする</p>

しか考えられず皆が先にと争うが、これも何事も列んでやる習慣をつけて次第に団体行動へ誘導してゆきたい。

○遊具はお友達と仲よく用い、又大切に使うようにする。

入園当初は一つ一つの事が習慣として考えられねばならぬ事で、はじめにその機会毎に約束しておかねばならぬ。以上の項目よりも沢山その園により又場所によつてよき習慣を約束してほしい。

行事

- 入園式
- 天皇誕生日

- 始業式
- 入園式
- 天皇誕生日

四月の保育所

鈴木 とく

花開く四月は諸々の仕事の新年です。幼児にとつては、常と変りないものでも、保育者にとつては、夢よ、もう一度……でありたいと思ひます。その夢が、幼児へ新年を感じとらせることでしよう。

計画の表現は個案書の無味なものでも、実行には理想への一押の努力を……。

今月から、大体一ヶ月の中の各週の計画のメモを考え、(之は保育所全体の動きの様なもの)その上で、出来れば年令別にした保育

の動きか、保育内容別にした扱い方等について、覚え書きの様なものを、考えて行きたいと思ひます。

○第一週、進級した幼児の保育と、新入する幼児の為の保育の準備

○保育者が変わったら、なるべく早く早く親しめるような遊び方をする。

○部屋が変わつたら、その部屋での、ものゝ置場等を一緒に話し合

う。

之は大きい部屋の或片隅でも、その組の為のスペースとして考えて行きたい。

○貼紙等、出来上つている便利なものを使うのもいいが、人数の少い中に、希望をきいて、略画を切りぬかせたりして、各自の